

持続可能な霊園を目指して

2020年3月、沖縄県が策定した「沖縄県SDGs推進方針」に基づく「おきなわSDGsパートナー」に認定されました。慢性的な墓不足の問題を抱える沖縄県において、よりよい霊園の在り方を求めるため、以下のことを取り組みに掲げています。

- 6市1町1村に管理型霊園を設置し、**公共の福祉に寄与。**
- 全8霊園に永代供養墓を設置し、**葬送の自由を実現。**
- 散在する個人墓地の改葬を促進し、**無縁化を抑制。**
- 墓地の集約化による**自然環境への負荷を軽減。**
- 少子高齢社会に対応した**終活セミナーの実施。**など

当協会の取り組みは13のゴールに該当しております。地球を笑顔にするため、よりよい世界のため、まずは地域の課題に目を向け活動をしています。



今年は旧暦うるう年『ユンヂチ』の年回りです！

ユンヂチとは、約33か月に1回訪れる旧暦の年回りの事です。旧暦は1年の日数が新暦と比べ約11日少ないため、徐々にズレが生じてきます。そのズレを調整するために2～3年に1回、旧暦を13か月にしており、この増えた1か月をユンヂチ（うるう月）と言います。1か月多いことはご先祖様には知られていないため、お墓の引っ越しや位牌の取り換えを行うのに最良の年とされています。昔ながらの考えでは、うるう月の増えた1か月がユンヂチの期間となりますが、現代ではうるう月のある年、1年間としてみています。

期間中は、お墓ごとの日取りで悩むことが少なくなるメリットがあります。今まで踏み出せなかった悩みを解決するためには、このユンヂチが最もよいタイミングです。この機会にぜひ、今あるお墓や位牌のことに向き合ってみませんか。経験豊富なスタッフが一緒に考え、ご希望に合う供養方法を見つけるお手伝いをいたします。



今年のユンヂチ
2025年1月29日(水)～2026年2月16日(月)
次回のユンヂチ
2028年1月27日(木)～2029年2月12日(月)
※次回のユンヂチは3年後になります。

<2025年 Vol.8>

沖縄県メモリアル整備協会
創立30周年記念シンポジウム

八重瀬メモリアルパークに
室内墓所「久遠の想い」誕生

お客様インタビュー
那覇市在住 比嘉さん

「メモリアル終活支援センター」
開所します！

うむい

第8号

「うむい」は、想いに寄り添うをコンセプトに、お客様とメモリアルパークを結ぶコミュニケーションマガジンです。メモリアルパークの最新情報やよりよく生きるための終活の話題をお届けします。



2025年6月1日発行 第6巻 第1号
発行/公益財団法人 沖縄県メモリアル整備協会 〒901-1111 沖縄県島尻郡南風原町字兼城123番地 ☎098-901-4710 ●制作・印刷/光文堂コミュニケーションズ株式会社

「沖縄のお墓 ～過去・現在・未来～」に 大反響



県内の改葬許可(墓じまい)申請件数が令和5年の1年間で4800件に上り、改葬件数の多さに比例して無縁墓の増加が危惧されます。この度、創立30周年記念シンポジウムの開催を通じて、無縁墓を増やさないためにできることを専門家が提案し、解決の糸口を探るためパネルディスカッションを行いました。



パネルディスカッションの様子



未来のために無縁墓や空き墓を増やさない施策を考える

沖縄県メモリアル整備協会は昨年、創立30周年を迎えました。その節目に合わせて、深刻化が懸念される「無縁墓」について話し合う「沖縄のお墓シンポジウム」を開催。当協会の堤純一郎理事長、齋藤学事務局長のほか、5人のパネリストが登壇し、現状分析と無縁墓を防ぐ取り組みについて活発な議論が交わされました。

まず、堤理事長が、沖縄の改葬は遺骨を移動するだけで墓石が放置される事例が多いと紹介。墓石の撤去には多額の費用がかかるため改葬のみで終わる人が多く、無縁墓や空き墓が都市開発の障害になっていると指摘しました。

お墓の相続事例を多く扱う司法書士の上原修氏は、墓地台帳の作成をはじめ、各自治体で統一した条例の整備や県を中心とした対策会議の設置などを提案。自治体と専門家が連携し、新たな法律の適用により手続きをすれば、無縁墓・空き墓の解消になるのではと述べました。また、元那覇市環境部長の島田聡子氏は、墓地利用実態調査を実施することで無縁墓や空き墓の発生抑制につながると提言。さらに、無縁墓の不法投棄問題が非行や犯罪の温床となるだけでなく、地域の

景観悪化につながると警鐘を鳴らしました。元那覇市都市計画部長の新垣昌秀氏は、公園整備事業を担当していた頃、墓の所有者が分からず苦労したエピソードを紹介。無縁墓だけが阻害要因ではないが、大きな要因であることは間違いないと明言しました。

個人墓地とその下の土地所有権がワンセットになっていることがお墓問題を複雑にしていると指摘したのは、全日本墓園協会専務理事の横田睦氏。墓地整理の視点だけでなく、各分野の専門家の意見を組み合わせることが問題解決に至るのではと言います。そして、空き家・相続・介護・仏壇・位牌・お墓の問題はセットだと話すのは、全国空き家アドバイザー協議会 沖縄県名護支部事務局長の山入端学氏。空き家問題は、相続問題であると同時に祭祀財産についても深刻な問題なのだと認識してほしいと呼びかけました。

各専門家による現状分析と、無縁墓を増やさないためのさまざまな提案は、自治体を含む多くの来場者から反響があり、今後の解決のための大きな足掛かりを作る機会となりました。



上原修氏
沖縄県司法書士会会長

無縁墓・空き墓の実態調査を実施し、県民に結果を公表・周知などの啓蒙活動を展開すべきだと考える。



新垣昌秀氏
元那覇市 都市計画部長

都市計画を阻む無縁墓の実態調査を行い、禁止区域の設定や運用方針などの見直しをするべき。

社会全体でお墓問題を考えることが重要

無縁墓に「しない・させない・増やさない」ための施策を提案



島田聡子氏
元那覇市 環境部長

無縁墓・空き墓の発生抑制、活用推進のため総合的な対策を県や国と連携して進める必要がある。



横田睦氏
(公社)全日本墓園協会 専務理事

単に墓地整理の視点だけでなく、各分野の専門家の意見を組み合わせることで問題解決を目指そう。



山入端学氏
全国空き家アドバイザー協議会 沖縄県名護支部事務局長

空き家問題は、相続問題であると同時に祭祀財産についても大変な問題なのだと認識してほしい。

6の提言で食い止める

官民の取り組みで無縁墓増を抑制



沖縄県メモリアル整備協会 理事長
堤純一郎

パネルディスカッションの議論内容を受けて、まとめたのが未来への6つの提言です。今後、無縁墓や空き墓を管理するための体制が必要で、そのためには自治体と民間の協力が必要不可欠です。この提言を今後の墓地行政を考える上でのポイントとして、県民や自治体関係者にもぜひ理解してもらえたらと思います。

シンポジウムで示された未来への提言

1. 個人墓地の登記と市町村への届け出の義務化
2. 市町村における個人墓地データベースの整備
3. 改葬許可手続きを簡略化し改葬を促進する
4. 改葬後の土地の活用及び墳墓の処理に関し、市町村と協議する場を設置する
5. 洗骨遺骨の再火葬について専用施設を検討する
6. 改葬の受入先及び社会の変化に対応する持続可能な公営墓地モデルを検討する

具志堅用高さんへ感謝状を贈呈

当日は、創立以来イメージキャラクターを務めている具志堅用高さんも出席いたしました。永きに渡り信頼感と親しみやすさを兼ね備え、沖縄県における管理型公園墓地の普及と当財団の発展に多大な貢献をしたことへの感謝の意を表して、感謝状が贈呈されました。



八重瀬メモリアルパークに 室内墓所「久遠の想い」誕生



今春、室内墓所「久遠の想い」を新設

多様な供養スタイルを提供する「総合供養施設」へ

八重瀬メモリアルパークに今春、想いをつなぐ室内墓所「久遠の想い」が誕生しました。従来の「お墓」と「納骨堂」の良さを備えた室内のお墓なので、夏の猛暑や雨風を避けることができ、お年寄りや小さな子どもも安心。また、お花やお香も用意しておりますので、いつでも快適にお参りができます。

そして最大の特徴は、「思い出参拝」と呼ばれるデジタルサイネージ。墓石のモニターに故人のお名前やお写真が映し出される仕組みです。思い出を振り返りながら大切な人とご家族をつなぎ、そして未来へとつなぐ、新しいお墓のかたちです。落ち着いた雰囲気の参拝室は個別に仕切られているので、ゆっくりと故人を偲ぶことができます。

室内墓所 3つの特長



デジタルサイネージ「思い出参拝」

御影石で造られた墓石に故人のお名前やお写真を映し出すことができます。在りし日の思い出を振り返りながら、大切な方をお偲びいただけます。



参拝室

参拝室は全部で5カ所をご用意。一つひとつのスペースがしっかりと区切られていますので、周囲を気にせずお過ごしください。



掃除不要、エアコン完備

室内墓所なので墓掃除や草刈りは不要。また、エアコンを完備しているので、お参りも快適。バリアフリーなので車いすの方も安心です。

Reports

開園式・第1回合同供養祭レポート

2025年4月29日（火）昭和の日。朝から晴天に恵まれ、工事関係者及び財団職員立ち合いのもと、「落慶法要及び新仏の開眼供養」を臨済宗凌雲寺の高梨千光副住職に導師を務めていただき、開園式を執り行ないました。当日は来園客も多く、霊園及び施設の見学でにぎわい、白を基調とした明るく広い室内墓所にたくさんの方が感動した様子でした。

また、5月15日（木）には、永代供養・納骨堂「おきなわ霊廟」にて第1回合同供養祭が執り行われ、こちらも高梨副住職に導師を務めていただき、納骨堂に納められている故人を偲びました。もしも将来、お参りをする子孫の代が途絶えても、永代にわたり供養を続けてまいります。



八重瀬メモリアルパーク合同供養祭日程
毎月第3木曜日の午前11時

お客様サポート 4つの内容

1 ご遺骨・お位牌の年間預かり

お墓の完成まで一時的に預けたい、急なことで仏壇が用意できていないなどお困りの場合、大切なご遺骨とご位牌をお預かりいたします。



2 ご遺骨・お位牌の永代供養

安心の永代供養墓を新設。ご遺族に代わって永続的に責任を持って管理・供養します。宗旨・宗派は問わずどなたでも安心してご利用いただけます。



3 法要室・会食室を完備

法要室や会食室では、ご納骨や年忌法要など各種法事が執り行えます。台数豊富な駐車場もありますので、ご親族にもお集まりいただけます。



4 スタッフ常駐

お墓にまつわるお悩みから終活に関することまで、終活カウンセラーの資格を持つ経験豊かなスタッフにお気軽に相談ください。



【お問い合わせ】八重瀬メモリアルパーク 住所／八重瀬町字具志頭1019番地
受付／9:00～17:00 定休日／水曜日（祝日は受付） お問合せ／☎098-901-4718



人生100年時代を生きるためのサポートを。 「メモリアル終活支援センター」 開所します！



東恩納センター長と三木副センター長

2024年より新たに「終活支援部」が発足し、メモリアル終活支援センターを開所します。
設立した理由や今後の活動などについて、終活支援部の二人に話を聞きました。

— 終活支援部を立ち上げたきっかけは？

東恩納：終活に関するお問い合わせを多くいただくようになり、世の中の意識が高まりつつあると感じていました。それでも実践している人はごくわずかです。「どうしたらいいのかわからない」「何から始めたらいいの」と困っていらっしゃる方が多く見受けられます。お客様の疑問やお悩みにしっかり対応したいと思い、終活支援部を立ち上げることにしました。

三木：主に周知活動に力を入れており、自社のみならず、各自治体や講演会などで講師を務めています。今後の人生をよりよく過ごしていただくために、終活の重要性や取り組むことへの意義をテーマに講話をしており、東恩納は両親を、私は父を見送っていますので、セミナーでは実体験を踏まえた内容をお伝えしています。

— セミナーと合わせて力を入れていることは？

東恩納：私たちは、終活に関する知識を備えた終活カウンセラーの資格を所有していますので、お客様から

のご相談に対して何をすればいいのかわからないのか、専門家の力が必要であるかなどの判断をすることができます。お客様と専門家をつなぐのも終活カウンセラーの役目のひとつです。行政書士や不動産会社など、私たちはさまざまな企業とご縁があり、その企業と連携して多岐にわたるお客様のお悩みに対して具体的な解決へと導いています。また、終活支援部は「社会課題を解決したい」という大きな目標を持っています。悩みや課題を抱えていらっしゃるお客様と一緒に解決できればと思います。

— 読者にひと言をお願いします。

東恩納：終活は人生を豊かにしてくれる前向きな活動です。一緒に楽しい終活を始めましょう！

三木：私たち二人に加えて、職員全員が終活カウンセラーの資格を持っています。よりよい最期を迎えるためのサポートをいたしますので、お気軽にお近くのメモリアルパークへお問い合わせください。

My 終活

- 30代でエンディングノートを記入。50歳でもう一度書いてみます（東恩納）
- 臓器提供意思表示カードを記入。家族にも所持していることを伝えていきます（三木）

出張セミナー開催

自治体などにお伺いして、終活セミナーの講師を務めます。日時や会場の相談なども含めて、お気軽にお問合せください。



☎0120-202-869

ご依頼はこちらから▶



メモリアル終活支援センターのご案内

2025年7月 南風原町兼城に開所予定。お墓の引っ越しや永代供養、終活全般のこと。お気軽にご相談ください。



【所在地】

島尻郡南風原町字兼城123番地1F

2025年度 終活セミナースケジュール

- 中城メモリアルパーク
奇数月の第2土曜日 10時～11時半
- 泡瀬メモリアルパーク
奇数月の第4日曜日 10時～11時半
- 具志川メモリアルパーク
奇数月の第4土曜日 9時半～11時

※日時は変更になる場合がございます。詳しくは講演内容と併せて、ホームページをご確認ください。



供養をつなぐために、永代供養墓へ

中城メモリアルパーク契約者 比嘉 良彦さん（那覇市在住）



「早くに亡くなった姪のお墓を準備したことが、中城メモリアルパークとの縁ですね」と話すご契約者の比嘉良彦さん。姪のためにお墓を建立し、体の弱かった甥、高齢の姉も含め全員を見送りました。清明祭のシーズンには欠かさずお墓参りに訪れており、行き届いた管理にとっても安心していただくと笑顔を見せてくれました。

「しかし私には子どもがおらず、お墓を継承する人がいません。今は健康ですが、年齢を重ねるにつれて墓守のことが心配で。元気な内にできることは自分でやっておきたいと考えるようになりました」との想いから、姉家族のお墓を解約し、永代供養契約に切り替えました。

お墓を購入する際、友人から永代供養付きを勧められたという比嘉さん。当時は「必要ないのでは」と思ったそうですが、追加費用の負担がないのと墓

守の間は自由にお参りができると聞いて、永代供養付きのお墓を選んでよかったといいます。

解約の相談から永代供養契約に移行するまで、わずか半年と時間はかかりませんでしたが、建築資材メーカーにお勤めの比嘉さんは仕事が多忙なため、ご遺骨の移動は中城メモリアルパークの職員が対応しました。

「那覇から中城までは少し遠くてね。毎回、自家用ヘリをチャーターするのも大変なんだよ（笑）」と茶目っ気たっぷりの冗談も飛び出すほど、心からホッとしたご様子の比嘉さんでした。

My 終活

- 親族が困ることがないように。元気な内に墓じまいを決断しました。

vol.1

お客さまを想い、 気持ちよく過ごせるように



1998年入社
泡瀬メモリアルパーク
比嘉 昭子

県内8か所のメモリアルパークの中で、最も社歴が長く、今年で勤務27年目。いつも笑顔を決やさず楽しそうに働く姿は、私たちスタッフのお手本となっています。

比嘉：以前は庶務をしておりましたが、現在は施設や参道を含め、霊園全体の清掃を担当しています。霊廟や室内墓所を掃除させていただく際には、「お花が枯れたので片付けますね」や「今から墓石をきれいにしますよ」など、必ず仏様にご挨拶してから行います。

元気の秘訣は「一日に7000歩ほど歩くこと」。足腰が丈夫なだけでなく、法要での説法もしっかり覚

えていて記憶力も抜群です。また、古くからお付き合いのあるお客様とは顔馴染みで「比嘉さんに会いに来たよー！」と声を掛けていただくこともよくあるそうです。

比嘉：できる限りお客様のお名前を覚えるようにしています。せっかくお越しいただいたので、「〇〇さん、お久しぶりですね」と声を掛けられたらと思って。名前を呼んであいさつをすると、みなさま喜んでくれます。

参拝の作法も熟知しているので、墓前で迷われているお客様には優しく声をかけ、手順を教えてあげながら一緒に合唱礼拝することもよくあります。

比嘉：大切なのは「故人を想う心ですよ」とお伝えしています。お墓を訪れて参拝する、それだけで十分ですから。

お客様のことを第一に考えて27年。長い職歴から身についた知識や経験を元に、スタッフのスキルアップのためにも色々とおアドバイスをしてくれるので、私たちへの気遣いも大事にしているのが伝わります。

My 終活

- 生涯健康第一。毎日7000歩は歩くように心がけています。

